

令和7年度事業計画（案）

〈概要〉

令和7（2025）年は、會津八一記念館が1975(昭和50)年4月1日に、新潟市西船見町に開館してから50周年を迎える。それを記念する展覧会や関連事業を「開館50周年記念」と銘打って企画する。

【特別展】會津八一が長年、東洋美術の研究を目的として収集した古代中国美術品をテーマに、母校早稲田大学内の會津八一記念博物館の所蔵品をはじめ、東京の古美術商との関わりを示す八一の書も含めて、八一の美意識で集めた中国美術の魅力を紹介する。

【企画展】春は寄贈・寄託者ごとのコレクションとして、八一の墨蹟や、交流のあった芸術家らの作品を展示。また八一が所蔵していた恩師小泉八雲の随筆の英文原稿も初めて公開する。夏は戦後80年の節目に、八一が中条に疎開した時代と戦後、新潟市に移り住んだ時代に制作した書作品をテーマに、晩年の八一の輝かしい文芸活動に焦点を当てる。冬は当館収蔵品の中から人気投票をもとに厳選して展示する。

【普及活動】開館50周年記念事業として①今秋から来春にかけて著名な八一の研究者や奈良の高僧などを招く連続講演会②八一の生涯をわかりやすくまとめた伝記『新潟県人物小伝 會津八一』の刊行（110頁）③記念館の発信力強化のため、ホームページを補強。①から③については、クラウドファンディング「にいがた、いっぽ」にも登録し、寄付を募っており、関係各位の多大なご支援により目標金額を達成できた。そのほかに「記念館50年のあゆみ」の冊子制作、今秋に関係者を招いた祝賀会を計画している。

このほか、恒例となった新潟県内の高校書道部員を対象とした「高校生拓本大会」、八一のいしぶみ巡り（新潟市内）第4弾、俳優松村雄基氏と新潟大学角田勝久教授によるトークイベント第6弾、毎年恒例の写真コンテストと入賞入選作品の全国巡回展なども計画している。

記念館は、市民や地元企業からの浄財をもとに建設され、その後地道に八一の顕彰活動を進め、多くの市民の来館に支えられてきた。今後も中高年以下の世代にも親しんでもらえるよう企画、運営に努めていく。

〈事業計画の内容〉（企画展197万円 特別展372万円）

（ア）展覧会事業 開館日数 283日

分類	展覧会名（仮称）	会期	内 容
1 企画展	開館50周年記念 —コレクションでたどる— 會津八一記念館の半世紀	4月1日（火） ～6月22日（日） 72日間	記念館は、半世紀にわたり八一ゆかりの人々やコレクターからの寄贈・寄託を受けて、1万2千点以上のコレクションを築き上げてきた。展覧会では、寄贈・寄託者ごとのコレクションとして、八一の墨蹟や交流のあった芸術家らの作品を展示する。また、八一が所蔵していた恩師小泉八雲の随筆の英文原稿を初めて公開する。
2 企画展	開館50周年記念 會津八一 晩年の輝き	7月1日（火） ～9月23日（火祝） 73日間	晩年の八一は、戦争などの社会情勢の混乱に生涯を左右されつつ、自らの集大成を残そうとしていた。書作に励み、書画集や歌集を刊行するなど、多くの成果をあげている。本展では新潟県北蒲原郡中条町に疎開し、新潟市を終の棲家とした昭和20年から昭和31年までの八一の業績を紹介する。
3 特別展	開館50周年記念 會津八一とコレクション - 博士の愛した中国美術 -	10月1日（水） ～12月7日（日） 60日間	八一が長年、東洋美術の研究を目的として収集した古代中国美術品をテーマに、母校早稲田大学内の會津八一記念博物館の所蔵品（明器、瓦塼、銅鏡、拓本）をはじめ、東京の古美術商との関わりを示す八一の書も含めて、八一の美意識で集めた中国美術の魅力を紹介。
4 企画展	開館50周年記念 ベスト・オブ・會津八一 同時開催 第19回會津八一の歌を映す 写真コンテスト入賞入選作品展	12月16日（火） ～令和8年3月22日（日） 78日間	当館が所蔵する1万2千点の作品資料の中から、職員のおすすめ作品や、特徴的で特異な作品を厳選して紹介する。また、令和7年度春から来館者に好きな作品をアンケートで募り、その結果を発表する。同時開催として、例年開催している写真コンテストの入賞入選作品も展示する。

展示替えのための休館日	6/23～6/30(8日間)、9/24～30(7日間)、12/8～15(8日間)		
作品解説会	企画展 期間中	月2回（第2、4日曜日）	午前11時
	特別展 期間中	毎週日曜日	午前11時

(イ) 普及活動 ※交渉予定も含む

〔講演会〕(120万円)

連続講演会

- ①講師：角田勝久氏（新潟大学教授）
演題：未定
日時：令和7年9月21日（日）
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：120名
参加費：未定
- ②講師：多川俊映師（興福寺寺務老院）
演題：未定
日時：令和7年10月5日（日）
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：120名
参加費：未定
- ③講師：大橋一章氏（元早稲田大学會津八一記念博物館館長）
演題：未定
日時：令和7年11月24日（祝月）
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：120名
参加費：未定
- ④講師：笠嶋忠幸氏（公益財団法人出光美術館学芸課長代理）
演題：未定
日時：令和8年1月18日（日）
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：120名
参加費：未定
- ⑤講師：野中浩俊（新潟市會津八一記念館館長）
演題：未定
日時：令和8年3月8日（日）
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：120名
参加費：未定

八一祭記念イベント

内容：高校生拓本大会（左野勝司氏制作の八一書の石版をもとに）
日時：令和7年7月31日（木）（予定）
会場：メディアシップ 20階 そらの広場

特別展記念トークイベント

出演者：松村雄基氏（俳優、書家）、角田勝久氏（新潟大学教授）
内容：未定
日時：令和7年10月19日（日）午後2時～3時半（予定）
会場：メディアシップ 日報ホール
定員：120名
参加費：1,500円

春・鼎談

出演者：近藤悠子氏（元新潟市會津八一記念館学芸員）
喜嶋奈津代（新潟市會津八一記念館主査学芸員）
湯浅健次郎（新潟市會津八一記念館学芸員）
演題：「會津記念館の学芸員が語る展覧会の裏側」
日時：令和7年5月22日（木）午後2時～3時半（予定）

会 場：メディアシップ 日報ホール
定 員：120名
参加費：500円

〔出版〕

『新潟県人物小伝 會津八一』

著者：喜嶋奈津代（新潟市會津八一記念館主査学芸員）

体裁・形態（判・頁） A5判、並製本、カバーなし、本文モノクロ 110 頁

発行元：新潟日報メディアネット

発行日：令和7年4月6日

価格：1,100 円

〔ホームページ補強〕

ホームページの全面更新はできないが、イベント案内や開館日の明確化など、最低限の発信力強化を図る。

〔広報宣伝〕

出前授業を開催した小・中・高校に八一の「学規」の色紙を配布

〔学習講座〕（会費で充当）

會津八一の歌を読む会「かまづかの会」

講師：若月忠信氏（文芸評論家）

日時：毎月第1土曜日 午後1時30分～3時

会場：砂丘館

〔出前講座〕

會津八一の作品を所蔵している、あるいは団体鑑賞でよく記念館を利用している学校や公民館などに向けて4月に出前講座の案内を送り、依頼のあるところから実施する。また昨年同様、市内小中学校の校長会に向けて出前授業の開催を要請する。

〔文学散歩〕

會津八一のいしぶみ巡り（新潟市内） 約5 km

コース：新潟市中央区内の八一の石碑やゆかりの地を中心にめぐる

期 日：令和8年3月

時 間：午後1時から午後4時

定 員：15名

参加費：1,500 円、保険料、入館料、冊子代込み

〔公 募 〕

「會津八一の歌を映す」第19回秋艸道人賞写真コンテスト（270万円）

- ① 令和7年4月 :ポスターと応募要項の制作と発送
- ② 11月中旬 :締め切り
- ③ 12月上旬:審査・結果発表
- ④ 令和8年2月中旬:表彰式・祝賀会

〔巡回展〕

第18回「會津八一の歌を映す」写真コンテスト巡回展

いかるがホール（奈良県斑鳩町）	4月2日～4月20日	入賞作品7点＋県外入選者
奈良県立図書情報館	5月1日～5月18日	入賞入選30点
中村屋サロン美術館	6月4日～7月13日	入選入賞30点
三千院	7月予定	入賞作品7点
高松市市民活動センター	10月予定	入賞入選30点、複製作品
胎内市産業文化会館	11月予定	入賞入選30点、

〔その他〕

鑑定会 春秋2回を予定（24万円）

春の部

日 時：令和7年6月7日（土）を予定 午後1時30分～3時

会 場：會津八一記念館

秋の部：未定